

本号のテーマ : 「考え続けるということ」

## ○ はじめに

佐久市立小中学校に、市外から新たに 98 名の先生方をお迎えし、令和3年度が始まりました。

本年度から中学校でも新学習指導要領が本実施となります。同要領では、小中とも、アクティブラーニング（同要領が告示される前まではこの表現で話題を集めていましたが、告示において「主体的・対話的で深い学び」という表現になって登場）を具現する授業改善が強く求められています。

さて、本号のテーマ「考え続けるということ」は、現在、北大阪メディカルクリニックの院長先生としてご活躍の牧田香理医師が今年3月に幻冬舎から出版された著書のタイトルです。借用させていただきました。実は牧田氏は、私が初任の小中学校で教えた生徒でした。

その **Active Learner** ぶりには目を見張るものがあり、彼女から寄せられる質問は、大学卒業したての理科教師がワクワクするような鋭さと深さを有していました。彼女は、単に知識を増やすというのではなく、自らじっくりと考えて、深い納得が得られるまで追究をやめませんでした。その輝く中学生が医師になられたことを知ったのは、何と教育長の職に就いてからのことです。インターネットで検索して私の現況を把握された氏が、ビッグニュースを届けてくれたのです。

先日、同著書が送られてきて、改めて(※)大変興味深く読ませていただいたところです。早速礼状をしたためましたが、その内容の一部が、新学習指導要領でも求めている学びの在り方につながっているという思いから、氏の了解を得て次に紹介したいと思います。

(※の説明は ○おわりに で触れます)



## ○ 著書「考え続けるということ」に出合って（著者への礼状から）

…(前略)…

さて、この度はご著書「考え続けるということ」をお贈りくださり、誠にありがとうございました。こういう書籍になることを願っていた一人としても大変うれしく思います。いいタイトルを付けられたなど感心させられながら、関わって少し私見を添えてみます。

ご案内のことと思いますが、新学習指導要領では、小中高とも、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が強く求められています。平成29年3月に告示される直前までは、Active Learning という表現で日本中の注目を集めておりましたが、告示の段階で、「いろいろな解釈がなされて混乱が生じることのないように」と、日本語になって登場したという経緯があります。私は、「Passive(受動的)でなくActive(能動的)な学びを大事にしていく」という程度の整えで十分事足りるし、その方が目指すところも明白でよいと考えておりました。

ところで、このActive Learning は、主に大学等の高等教育において、その質を変えていく必要があるとして用いられるようになった語であると理解しています。そのことにも触れて改訂前年に文科省の担当課長さんと懇談させていただく機会がありました。私から「義務教育ではこれまでも目指してきていること。しかしながら目指していることと、それが実現できているかどうかは別問題なので、今回の改訂でActive Learning の実現が強調され、盛り込まれることは大歓迎」と申し上げたところ、その通り認識しており、改めて大事に考えたい旨返答をいただきました。

「私見」の核心に入ります。牧田医師が「考え続ける」ことを大事にして自らの歩を積み上げてこられ、今日、一人ひとりの患者に寄り添う医師として厚い信頼を得ておられること、中学生時代に関わった教師としてこの上ない喜びです。その基本姿勢は、既に中学生の時代から確かな片鱗を見せておりました。Active Learner の実像として今も私の脳裏に焼き付いています。学級担任ではありませんでしたが、理科の鋭い質問にお訪ねいただく度に、教師冥利を覚えたものです。

こうして振り返ると、Active Learning は、「新」ではなく、「真」の学びです。今に始まった新しい学びではなく、私も自分が行ってきた授業づくりにおいて、そこを目指さなかったことはなかったと、控え目に自負しています。

医学の話はもちろんのこと、日々出合う様々な事物現象に積極的に対峙し、我が事として自らの見方考え方を整理しておられるその生きざまに、大勢の読者が貴重な

刺激を受けることでしょう。紡ぎ出された文章には、熱い想いとスマートなロジックが小気味よく織りなされており、読者の心をつかんで放さないと思います。

…(後略)…

## ○ おわりに

(※) 著書「考え続けるということ」は、牧田医師が平成30年11月から発信を始められた「院長コラム」を編集したもので、私は当時からそのコラムの発信に折々学ばせていただいております。よって、先の文章で「改めて」を付した次第です。

皆様もよろしければ本著に出合ってみてください。

この新年度も、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中でのスタートですが、学校教育も社会教育も可能な限りの感染予防対策をとりながら前進させていきたいと思っています。気持ちとすれば、「晴天を衝(つ)く」勢いで歩んでまいりたいものです。どうぞよろしくお願いいたします。